

佐賀市富士町において実施された佐賀自然史研究会第 71 回観察会 「“日本の蜘蛛学発祥の地”でクモを探してみよう」で確認されたクモ

藤 田 将 平・中 村 頌 湧・徳 田 誠

Spiders found in Yunoharu, Fuji-cho, Saga, northern Kyushu, Japan

Shohei Fujita, Shoyo Nakamura and Makoto Tokuda

〒 840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1 佐賀大学農学部システム生態学研究室

1. はじめに

明治政府の求めに応じ、西洋医学を講義するために来日したウィルヘルム・デーニッツ Wilhelm Dönitz は、東京医学校や警視庁裁判医学校で教鞭をとった後、1879 年（明治 12 年）に佐賀郡公立佐賀病院（現・好生館）に御雇教師・医師として着任した（小関 1977, 1980；市場, 1975a, 2001）。そして、1885 年（明治 18 年）までの佐賀滞在中、県内を中心とする西九州各地で様々なクモを採集し、母国ドイツに持ち帰った。その後、これらの標本を中心に「Japanische Spinnen（日本のクモ）」（Bösenberg & Strand, 1906）が出版された。本書は 400 種以上のクモを含み 300 ページを超える大著であり、“日本のクモ類に関する最大のモノグラフ”（松本・小野, 1978），“わが国唯一の最大のテキストブック”（高橋, 2000）とも評された日本のクモ学黎明期における最重要文献である。

以上のような経緯から、佐賀県は日本産の多くのクモの模式産地となっているため、日本のクモ学の成り立ちを考える上で非常に重要な地域であり（松本, 1977a；小関 1977；高橋, 2000）、日本のクモ学発祥の地（鍵山, 1979；小関, 1980）とも言われている。デーニッツが西九州で採集したクモに関しては、市場（1975b, 1976）に整理されているが、中でも地名として登場頻度が高いのは、Saga, Kompira, Yunohama の 3 箇

所であり、それぞれ市場（1975a）により、佐賀市内、佐賀市金立町大門（金刀比羅神社）、佐賀市富士町湯の原（熊の川温泉）と推定されている〔注：佐賀市周辺に Yunohama という地名は存在しないため、Yunoharu の誤りと考えられている；詳細は市場（1975a）を参照〕。中でも、佐賀市富士町湯の原（＝富士町上熊川）は、当時の環境が比較的によく残されていると考えられ、1976 年 7 月 22 日から 25 日（ただし、台風の影響で 25 日は採集せず）にかけて、松本誠治氏による採集が行われており、約 40 種のクモが記録されている（松本 1977a, b；1980）〔注：松本（1977a, 1980）では 1976 年 7 月 22～25 日、松本（1977b）では 1976 年 8 月 22～25 日と記載されているが、これらは各論文の記述内容から同一の旅程で採集されたものであることに疑いの余地はない。松本（1977a）に記載された曜日および当時の天候の記録から、松本（1977b）の論文の 8 月という表記が誤りであり、いずれも 7 月の採集記録であると判断した〕。

そこで、クモ学における佐賀県の重要性和デーニッツの功績に関する会員の理解を深めるため、佐賀市富士町上熊川においてクモを対象とした佐賀自然史研究会の観察会を実施することとした。

2. 調査方法

観察会は、2018年5月19日の午前9時から12時にかけて実施された。晴天に恵まれ、参加者は23名であった。まず、企画者がクモに関する基礎知識やデーニッツの功績、クモ学における佐賀の重要性などについて紹介した。その後、A：嘉瀬川河川敷、B：草原、C：雑木林において、それぞれ約40分ずつ、主として見つけ採り、一部はスウィーピング法によりクモを探索・採集した（徳田，2018）。得られたクモは、1個体ずつ15 mlあるいは50 mlのプラスチックチューブに保存し、必要に応じて研究室に持ち帰った。幼体による種の同定は困難であるため、成体になるまで飼育を試みた。

今回確認されたクモは、著者の一人、藤田により同定された。標本は、佐賀大学農学部システム生態学研究室に保管されている。

3. 観察会で確認されたクモ

今回の観察会で確認されたクモは以下の通りである。なお、クモの和名および学名は小野（2009）に基づいた。採集・確認された場所は、A：嘉瀬川河川敷、B：草原、C：雑木林として区別し、プラスチックチューブに採集者が書かれていた場合にはそれも示した（表記がない場合、採集は藤田将平らによるものとする）。

ハグモ科 Dictynidae

- (1)ハグモ科の一種 Dictynidae gen. sp. (1個体)

場所：A

備考：幼体のため、属および種の同定は困難であった。

ヤチグモ科 Coelotidae

- (2)ヤチグモ属の一種 *Coelotes* sp. (1個体)

場所：C

備考：幼体のため、種の同定は困難であった。

タナグモ科 Agelenidae

- (3)クサグモ *Agelena sylvatica* (3個体)

場所：A、採集者：太田一樹 他

備考：松本（1980）も湯の原周辺で採集している。なお、本種の学名は、松本（1980）も含め、長い間 *Agelena limbata* とされていたが、近年は *A. sylvatica* が使用されている（小野，2009）。

キシダグモ科 Pisauridae

- (4)イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* (4個体)

場所：A、B

備考：松本（1980）も湯の原周辺で採集している。

コモリグモ科 Lycosidae

- カイゾクコモリグモ属の一種 *Pirata* sp. (1個体)

場所：C

備考：幼体のため、種の同定は困難であった（下記のクラークコモリグモの可能性もあるため、冒頭に番号は付さなかった）。

- (5)クラークコモリグモ *Pirata clercki* (1個体)

場所：C、採集者：藤田将平

- (6)ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis* (図1) (5個体)



図1. ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis*

場所：B

備考：デーニッツも湯の原周辺で採集している（市場 1976）.

(1 個体)

場所：C, 採集者：辻田依里香

備考：松本（1980）も湯の原周辺で採集している.

(7)ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* (図 2) (1 個体)

場所：B, C (C では写真撮影のみ) 採集者：藤田将平

備考：松本（1980）も湯の原周辺で採集している.

(12)コウシサラグモ *Nerienne clathrata* (1 個体)

場所：C, 採集者：藤田将平

ヒメグモ科 Theridiidae

(13)ヒザブトヒメグモ *Parasteatoda ferrumequina* (1 個体)

場所：B, 採集者：尋木優平

(8)イナダハリゲコモリグモ *Pardosa agraria* (19 個体)

場所：B

アシナガグモ科 Tetragnathidae

(14)チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* (3 個体)

場所：A

ササグモ科 Oxyopidae

(9)ササグモ *Oxyopes sertatus* (図 3) (1 個体)

場所：B, 採集者：尋木優平

備考：松本も（1980）湯の原周辺で採集している .

(15)アシナガグモ科の一種 *Tetragnatha* sp. (5 個体)

場所：A

サラグモ科 Linyphiidae

(10)チビアカサラグモ *Nematogmus sanguinolentus* (1 個体)

場所：B, 採集者：Ayman K. Elsayed

備考：アシナガグモ *T. praedonia*, あるいはヤサガタアシナガグモ *T. maxillosa* と考えられるが, いずれも幼体のため正確な同定は困難であった. なお, 両種ともデーニッツは湯の原付近で採集しており（市場 1975b）, アシナガグモは松本（1980）も湯の原周辺で採集し



図 2. ハリゲコモリグモ *Pardosa laura*



図 3. ササグモ *Oxyopes sertatus*

ている。

コガネグモ科 Araneidae

- (16)コガネグモ *Argiope amoena* (1 個体)

場所：不明 (表記なし)

- (17)ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* (1 個体)

場所：C

備考：デーニッツも湯の原周辺で採集している (市場 1975b)。

- (18)ドヨウオニグモ *Neoscona adianta* (1 個体)

場所：B

- (19)ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (1 個体)

場所：C

シボグモ科 Ctenidae

- (20)シボグモ *Anahita fauna* (図 4) (4 個体)

場所：B

エビグモ科 Philodromidae

- (21)ヤドカリグモ *Thanatus miniaceus* (図 5) (1 個体)

場所：B

- (22)アサヒエビグモ *Philodroms subaureolus* (1

個体)

場所：A

備考：松本 (1980) も湯の原周辺で採集している。

ワシグモ科 Gnaphosidae

- (23)メキリグモ *Gnaphosa kompirensis* (4 個体)

場所：B, 採集者：Ayman K. Elsayed 他

カニグモ科 Thomisidae

- (24)ワカバグモ *Oxytate striatipes* (図 6) (1 個体)

場所：C, 採集者：藤田将平

備考：松本 (1980) も湯の原周辺において採集している。

- (25)ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* (3 個体)

場所：B



図 4. シボグモ *Anahita fauna*



図 5. ヤドカリグモ *Thanatus miniaceus*



図 6. ワカバグモ *Oxytate striatipes*

備考：デーニッツも湯の原周辺において採集している（市場 1976）.

(26) ハナグモ *Misumenops tricuspidatus* (4 個体)

場所：B, 採集者：中原正登 他

備考：松本（1980）も湯の原周辺において採集している.

ネコグモ科 Corinnidae

(27) ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus* (1 個体)

場所：C

ハエトリグモ科 Salticidae

(28) シラホシコゲチャハエトリ *Sitticus penicillatus* (2 個体)

場所：B, 採集者：辻田依里香・藤井智畝

(29) メガネアサヒハエトリ *Phintella lineata* (図 7) (1 個体)

場所：B, 採集者：滑川喜生

(30) マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (2 個体)

場所：C

備考：デーニッツ, 松本とも, 湯の原周辺で採集している（市場 1975; 松本 1977b）.

(31) ヨダンハエトリ *Marpissa pulla* (図 8) (1 個体)

場所：B, 採集者：口本文孝

(32) オスクロハエトリグモ属の一種 *Mendoza* sp. (図 9) (1 個体)

場所：B 採集者：口本文孝

備考：幼体のため, 種の同定は困難であった.

(33) ヒメカラスハエトリ *Rhene albigera* (図 10, 11) (1 個体) [佐賀県初記録]

場所：A, 採集者：側垣共生

備考：本種はこれまで, 九州では長崎県と熊本県で確認されているが（新海ら, 2016）, 佐賀県からは今回が初記録である.

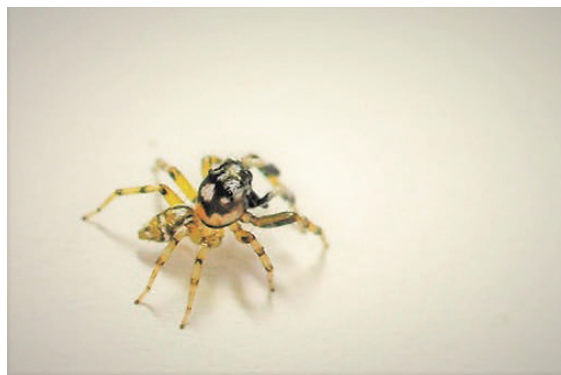


図 7. メガネアサヒハエトリ *Phintella lineata*

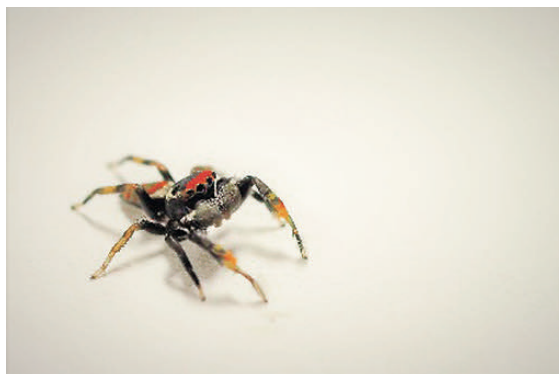


図 8. ヨダンハエトリ *Marpissa pulla*



図 9. オスクロハエトリグモ属の一種 *Mendoza* sp.

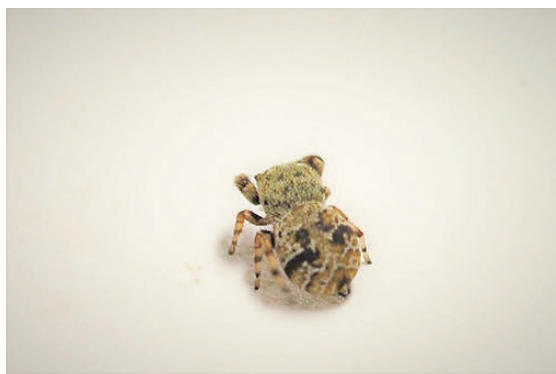
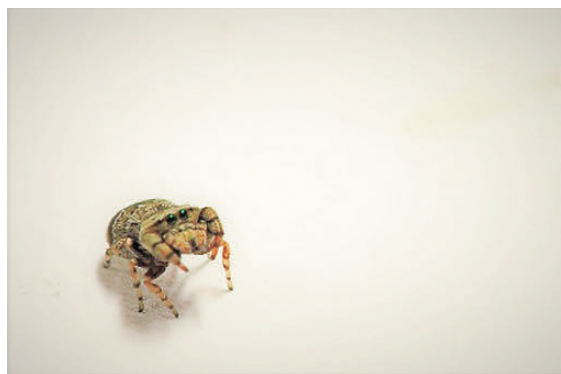


図 10 (左), 11 (右). ヒメカラスハエトリ *Rhene albiger*

(34)ウデブトハエトリ *Harmochirus insulanus* (1 個体)

場所：C, 採集者：Ayman K. Elsayed

備考：デーニッツも湯の原において採集している (市場 1975; 松本 1977b). なお, Bösenberg & Strand (1906), 市場 (1975), 松本 (1977b) では *Harmochirus brachiatus* というインドネシアから記載された種の学名が使用されていたが, 現在は日本産の種は *H. insulanus* とされている (Logunov ら 1997).

(35)カタオカハエトリ *Euophrys kataokai* (2 個体)

場所：B, 採集者：松田浩輝 他

(36)エキスハエトリ *Laufeia aenea* (1 個体)

場所：C

4. 考察

今回の観察会では, 嘉瀬川河川敷で 8 種, 草原 18 種, 雑木林の林縁部で 11 種のクモが採集された. 採集されたクモは合計 36 種であった. このうち, ヒメカラスハエトリは本報告が佐賀県初記録である.

採集されたクモのうち, デーニッツが 1880 年頃に湯の原周辺で採集したものとの共通種は

ギンメッキゴミグモ, アシナガグモ (およびヤサガタアシナガグモ), ハラクロコモリグモ, ヤミイロカニグモ, ウデブトハエトリ, マミジロハエトリの 6 種であり, 松本が 1976 年 7 月に湯の原周辺で採集しているクモとの共通種はクロナンキングモなど 9 種 (アシナガグモを含めると 10 種) であった. そして, デーニッツ・松本・今回の観察会のいずれでも確認されているクモは, マミジロハエトリ (アシナガグモを含めると 2 種) のみであった. したがって, 今回の採集種のうち, デーニッツとの共通種は約 17%, 松本との共通種は約 25% であった. なお, 松本 (1977b, 1980) による湯の原での採集種 42 種のうち, デーニッツとの共通種は 9 種であり, 共通種率は約 21% である.

このように, 同一の地域で採集しているにも関わらず, 共通種の割合は全般的に低い値となった. この原因として, 1880 年頃, 1976 年, 2018 年と, 時代の経過に伴う調査地の環境変化もある程度は影響している可能性もあるが, 今回の調査は 5 月 19 日のみの実施であるため, より入念に調査すれば, さらなる共通種が確認されることが考えられる. また, 松本 (1980) も指摘しているように, 松本による調査は 7 月の実施であるのに対し, デーニッツによる採集時期は不明なものも多いが, 3 月や 5 月という記録が見られることから, 採集時期の違いによる影響も考えられる. 現在の湯の原周辺のクモ相を

より正確に明らかにするには、他の季節も含めた調査が必要である。

前述のように、佐賀は日本産の多くのクモの模式産地になっており、クモの分類学上重要な地域である。中には、デーニッツが佐賀で採集して以降、一度も生息が確認されていない種も存在しており（小野 2009）、これらの種の分類学的地位を再検証するには、佐賀県内における調査が重要である。また、デーニッツの時代から約 140 年の時を経た現在、全国的にみれば佐賀県はクモ相の解明が遅れている地域となっており、筆者らによる近年の調査でも佐賀県初記録の種（藤田 2017, 2018；中村 2018）や確認例が少ない種（中村 2017）が見つかった。県内におけるクモ相のさらなる解明のために、佐賀自然史研究会の会員の皆様にも引き続きご協力頂けると大変ありがたい。

謝辞

今回の観察会の準備と運営にご尽力下さった中原正登氏と滑川喜生氏をはじめ、観察会で熱心にクモを探索して下さい下さった参加者の皆様、および、私有地での調査をご快諾下さった湯泉郷温泉館 湯招花の皆様に感謝申し上げます。また、筆者らがクモ研究における佐賀県の重要性を認識し、今回の観察会の企画に至ったきっかけの 1 つは、故・市場利哉先生が丹念に収集されたデーニッツ関連の膨大な資料を、筆者の一人、徳田がご遺族から引き継がせて頂き、その内容を学ばせて頂いたことである。市場先生の碩学に改めて敬意を表すとともに、ご遺族の皆様に謹んでお礼申し上げます。

引用文献

- Bösenberg, W. & E. Strand (1906) Japanische Spinnen. Abhandlungen der Senckenbergischen Naturforschenden Gesellschaft 30 : 93-422.
- 藤田将平. 2017. 佐賀県で確認された九州初記録のクモ 3 種. 佐賀自然史研究 (22) : 56-57.
- 藤田将平. 2018. 佐賀県におけるツシマトリノフンダマシの採集記録. 佐賀自然史研究 (23) : 63.
- 市場利哉. 1975a. 佐賀県でクモを採集した W・デーニッツ. 採集と飼育 37 : 1-4.
- 市場利哉. 1975b. デーニッツが西九州から採集したクモ類 (1). 佐賀北高校紀要 (1) : 13-21.
- 市場利哉. 1976. デーニッツが西九州から採集したクモ類 (2). 佐賀北高校紀要 (2) : 31-38.
- 市場利哉. 2001. 佐賀病院の御雇教師 W. Dönitz ノート. 佐賀自然史研究 (7) : 1-8.
- 鍵山栄. 1981. 佐賀医療の功績者デーニッツ. 佐賀史談 12 (1) : 16-22.
- 小関恒雄. 1977. 御雇教師ウイルヘルム・デーニッツ. 日本医史学雑誌 23 : 349-361.
- 小関恒雄. 1980. 御雇教師ウイルヘルム・デーニッツ (二). 日本医史学雑誌 26 : 432-443.
- Logunov, D. V., H. Ikeda & H. Ono (1997) Jumping spiders of the genera *Harmochirus*, *Bianor* and *Stertinius* (Araneae, Salticidae) from Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A 23 : 1-16.
- 松本誠治. 1977a. W. デーニッツのクモ採集地を訪れて. 採集と飼育 39 : 558-561.
- 松本誠治. 1977b. 湯ノ原及び金刀比羅神社 (佐賀県) のハエトリグモについて. ATYPUS (69) : 3-15.
- 松本誠治. 1980. 佐賀県湯ノ原および金刀比羅神社産クモ類採集目録. Heptathera 1 (3) : 1-11.
- 松本誠治・小野展嗣. 1978. E. Strand の序文にみる「Japanische Spinnen」完成までのいきさつ. ATYPUS (73) : 17-23.
- 中村頌湧. 2017. 佐賀県佐賀市で確認されたキノボリトタテグモ (クモ目トタテグモ科). 佐賀自然史研究 (22) : 52-53.
- 中村頌湧. 2018. 佐賀県から初めて確認されたキシノウエトタテグモ (クモ目トタテグモ

- 科). 佐賀自然史研究 (23) : 68-69.
- 小野展嗣. 2009. 日本産クモ類. 738pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 新海明・谷川明男・安藤昭久・池田博明・桑田隆生 CD 日本のクモ ver. 2016. (データ CD) [http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/cd/cd.htm]
- 高橋登. 2000. 日本のクモ学と御雇外国人. Kishidaia (79) : 5-12.
- 徳田誠. 2018. 第 71 回観察会報告『“日本の蜘蛛学発祥の地”でクモを探してみよう』. 佐賀自然史研究会 News Letter (100) : 3-4.